

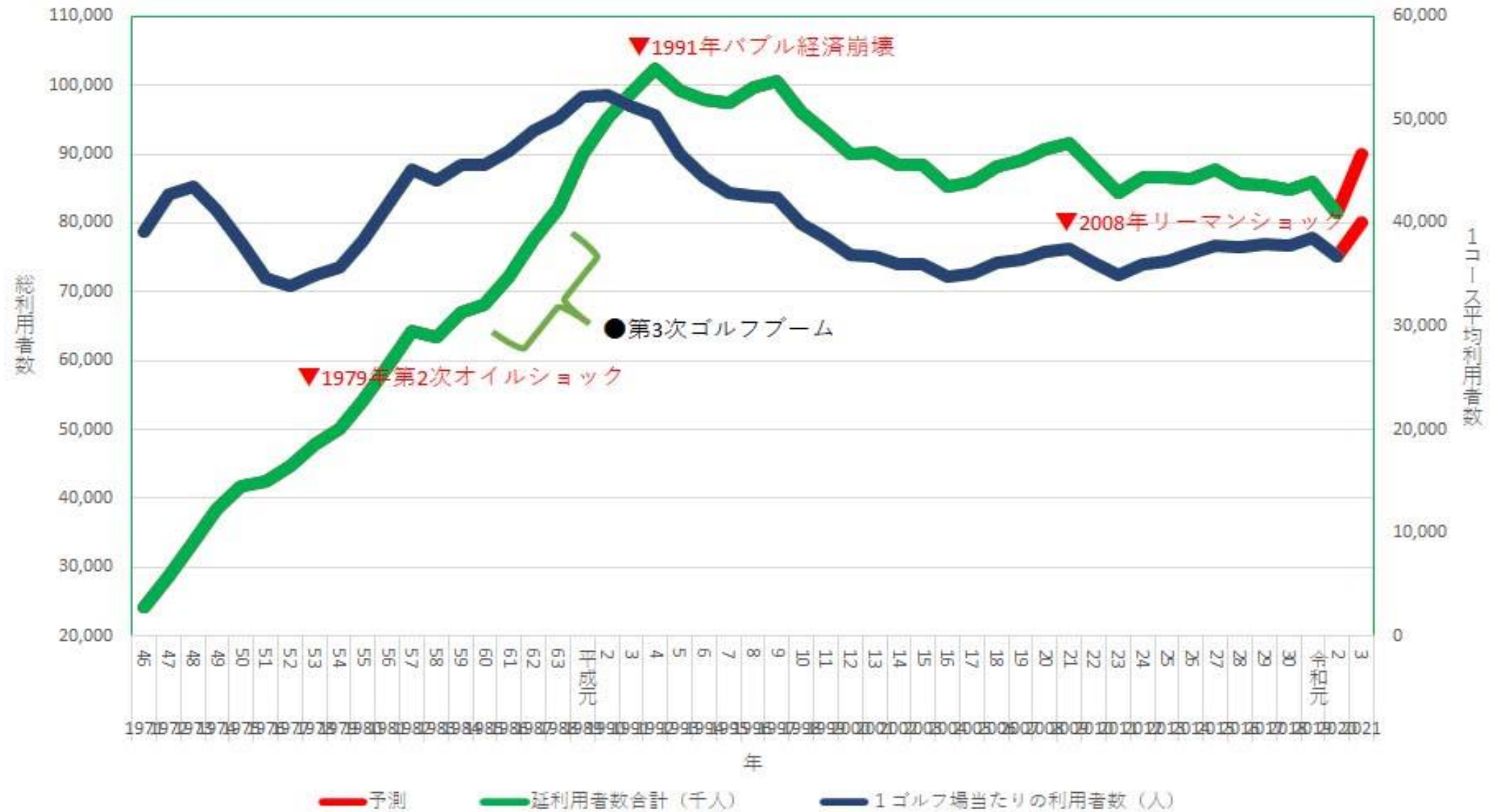
ポストコロナ社会で ゴルフを普及するには？

ゴルフ界はウェルビーイングな社会の実現に貢献する

2022年3月11日 GMACセミナー

一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会 専務理事 大石 順一

ゴルフ場利用税の課税状況からみた利用者数の推移



ゴルフ界全体でゴルフ普及活動の中長期ビジョンを策定

- * 時代の変化に応じて「ゴルフ界の価値観」も変化が必要
- * 統一したビジョン＝ゴルフ未実施者の支持を得る
「ゴルフの普及を通して様々な社会課題の解決に貢献」
- * ゴルフ業界体質（様々な業種で構成） ➡ 同一施策の展開活動は困難
活動目的が千差万別で、危機意識の共有が困難



**大きな意味での統一ビジョンは 設定するが、
達成のための施策は個々の立場で立案**

「ビジョン」を持つとは？

* 「ビジョン」とは？ → 「羅針盤」のようなもの

* 優れた「ビジョン」を生み出す土壌

1. 世の中を革新する最高のものを提供するとの意志とエネルギー
2. すべてを忌憚なく議論する風土
3. 個性を認め合う気質

* 優れた「ビジョン」とは？

**多くの人に「私の夢でもある」と思ってもらえる
「公共の夢」としての要素が必要**

「中長期ビジョン」の目標年は「2030年」

第1理由

1960年代後半以降のゴルフブームを牽引した

「団塊の世代」が80歳以上 ⇒ ゴルフリタイアが加速

第2理由

持続可能な世界を実現するための目標「SDGs」の最終年度

ビジョン立案のための3視点

第1視点 **新型コロナウイルス感染症に起因する視点**

第2視点 **社会構造の変革に起因する視点**

第3視点 **SDG s に起因する視点**

【留意点】

各視点は、独立したものではなく、相互に連携し合っている。

第1の視点 新型コロナウイルス感染症に起因する視点

【コロナ禍での価値観の変化・・・ポストコロナ社会でも持続】

- * 家族や仲間との時間の大切さ・助け合う社会

- * 自身の生活維持に欠かせない低次な欲求にシフト

「生理的欲求」「安全欲求」（マズローの欲求五段階）

- * スポーツによる「健康維持」⇒ 3密回避 ⇒ ゴルフ

- * 感染対策「セルフ」「スルー」「食堂・浴場閉鎖」への一定の評価

【コロナ収束後】

- * 価値観が高次の「承認欲求」や「自己実現欲求」に回帰

第2の視点 社会構造の変革に起因する視点

1. 「変革する資本主義」

マルクス・ガブリエル（ドイツ人哲学者）

コロナパンデミック・環境破壊・貧困は、グローバル経済が過剰な競争によって利益を追求し過ぎた結果。

倫理的価値と経済的価値は同時に引き上げられる。

渋谷 栄一 翁

「論語と算盤」＝「**道徳と経済は両立する**」

強欲資本主義 ⇒ 持続可能な社会を目指す「倫理資本主義」

「マルチ・ステークホルダー資本主義」、「三方良し」

2. 人口減少と超高齢社会

* 2050年予測 → 日本の人口 **9,700**万人 * 高齢化率 **39%**

(1) 高齢ゴルファーの継続率アップ

* 飛距離に応じたプレー距離 → 「Tee It FORWARD」の普及
(ティーの「色」ではない。ジェンダー平等とも関連)

* 体力維持 → ストレッチングルームの設置・ゴルフに適したストレッチ

* ゴルフ仲間の欠落対策 → ゴルフ場やゴルフ練習場のサロン化

(2) 若年層へのゴルフ普及

* 若年層のスポーツに対する価値観の変化

五輪種目の変化：アーバンスポーツ（個性的な技・パフォーマンス）

気軽に一人で楽しめ、他のスポーツと掛け持ちが出来る

* 健康寿命の延伸（若い時からスポーツに親しみ継続することが重要）

男性平均寿命	81.4歳	健康寿命	72.7歳	支障のある期間	8.7年
--------	-------	------	-------	---------	------

女性平均寿命	87.5歳	健康寿命	75.4歳	支障のある期間	12.1年
--------	-------	------	-------	---------	-------

* 「働き方改革」・・・「健康経営」

* 人生に必要なライフスキルの習得（WHOの項参照）

第3の視点 SDGs (持続可能な開発目標) に起因する視点

1987年国連「環境と開発に関する世界委員会」

「サステイナブル・デベロップメント」の定義

将来の世代が必要とするものを損なうことなく、

現代の世代の欲求を満足させる開発

2015年国連総会決議「SDG s」

人類が豊かさを求め過ぎた ⇒ 「環境破壊」 「格差拡大」



「誰一人取り残さない」との決意のもとに

「誰が考えても異論のない解決を要する 17 のテーマ」がSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



（１）気候変動問題

＊ 2021年8月国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC第1作業部会)

「人間の活動が地球温暖化を

引き起こしていることは疑う余地はない」と断定

＊ パリ協定・・・「COP26」2050年までにカーボンニュートラル

＊ 日本国内の動き

2030年目標 温室効果ガスを2013年度比46％削減

2050年目標 「カーボンニュートラル」

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」

2022年施行 「プラスチック循環促進法」

2021年発表 農林水産省「みどりの食料システム戦略」

（２）WHO（世界保健機関）・・・健康は基本的人権

* SDGsと身体活動

ウォーキング・サイクリング・スポーツ・アクティブなレクリエーション等の身体活動の促進は、健康面や社会経済面に倍数的なベネフィットをもたらし、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に寄与する。

* WHO：「ライフスキル」

日常の様々な問題や要求に対し、

より建設的・効果的に対処するために必要不可欠な能力

自己認識スキル

コミュニケーションスキル

意思決定スキル

目標設定スキル

ストレスマネジメントスキル

(3) SDGsとゴルフ場経営の合理化と効率化(例)

* 使い捨てプラスチック製品削減

過剰サービスの削減 使用量の減少 代替品 回収の徹底

* フードロスの削減

事前予約	適正なメニュー数	適量サービス
地産地消メニュー	栄養価表示	アレルギー対策
ヘルシーメニュー	残渣のコンポスト化	

* 「働き方改革」 ➡ ワークライフバランスの改善・従業員満足度向上

コース管理技術の向上と地球温暖化防止

* みどりの食料システム戦略（農林水産省）  コース管理技術の向上
2050年までに、**農林水産業のCO2ゼロミッション化**



化学農薬の使用量	50%削減
化石燃料を原料とした化学肥料	30%削減

* ゴルフ場の緑化機能（A）・・・二酸化炭素固定・酸素発生・温湿度の適正化

* ゴルフ場用地の「土壌炭素」再蓄積量測定（B）

「国別温室効果ガスインベントリ報告書」

利用が変化した土地（20年間）・・・「土壌炭素」の変動量を報告

（A） + （B） = ゴルフ場の「温室効果ガス固定機能」（温暖化防止機能）

(4) SDGsと「ゴルフのイメージアップ」(例)

* 「ゴルフの普及」：スポーツであり、アクティブなレジャー



健康面・社会経済面に倍数的なベネフィット

* ゴルフ実施「健康寿命の延伸」・「ライフスキル」の習得



教育現場や地域との連携によって

「全ての人に健康と福祉を」 「質の高い教育」

「住み続けられるまちづくりを」 「働きがいも経済成長も」

ゴルフ普及に必要な姿勢 → 多様性と包摂性

* 東京五輪の新種目・・・アーバンスポーツ 5 種目

スケートボード スポーツクライミング サーフィン

3X3 バスケット BMX フリースタイルパーク

* 東京五輪「7 競技で男女混合種目」

「陸上・水泳・柔道・卓球・トライアスロン・射撃・アーチェリー」で採用

* 「ジェンダー平等」⇒LGBTQ公表選手16名以上、トランスジェンダー選手の初参加

* 大会組織委員会前会長の「女性蔑視発言」⇒多様性の第一歩ともいえる

「ジェンダー」についての日本の遅れ

東京五輪・パラリンピックの最大のレガシーは？

日本社会に**多様性と包摂性について考える契機を与えてくれたこと**

ゴルフ界はウェルビーイングな社会 の実現に貢献する

＊ 2030年にSDGsを達成するには

広く長期的な視野で社会を変えていく目標を掲げ、

具体的な取組みは身近な視点でできることから着手

＊ 「ウェルビーイング」とは？

そもそも人間が幸福であり、福祉を享受することができること、

そのことを大切にする考え方が、ウェルビーイング

ゴルフの持つポテンシャルを浸透させ、

「ウェルビーイングな社会」を実現することを目指し、

個々の特性に応じたミッションを展開！